

寝屋川民報

議会版

発行
日本共産党
寝屋川市議会議員団
824-1181
(内線2399)
FAX No. 824-7760
Email: jpcnc@cc-net.or.jp
No. 1962

田中 ひさ子
〒松町10-36
☎823-1714

寺本 とも子
〒豊里町38-1-105
☎829-9424

中林 かずえ
〒宝町4-3
☎839-2289

中谷 光夫
〒高宮155-8
☎823-5947

松尾 信次
〒下木田町12-6
☎821-7427

あかつき園・ひばり園・第2ひばり園

給食費負担 市が4年間の激変緩和措置

給食費
保護者負担(1日あたり)

07年度末まで	200円
08年度	300円
09年度	400円
10年度	500円
11年度	620円

一二日の厚生常任委員会で、市立療育・自立センター条例の一部改正が審議されました。

これは障害者自立支援法の十月からの本格実施にともない、市立あかつき園・ひばり園・第二ひばり園(障害児通園施設、定員二〇人)が、措置制度から契約制度に利用形態が変更されることに伴うものです。

とくに利用者負担が従来の応能負担から応益負担に、原則一割食費は実費負担)となり

このため、月に二〇日の通園の場合、ひばり園・第二ひばり園(知的障害児)の場合月三万円の負担、あか

「自立支援法」本格実施 保護者負担が大幅増に

つき園(肢体不自由児)で月三〇〇〇円程度の負担となり(課税世帯の場合)、従来の二倍から六・八倍もの負担増となります(D1からD4の場合)。

非課税世帯の場合は負担が増えなかったのが、約一万円程度の負担となります。また、市民

日本共産党市議会で 負担軽減求める

あかつき園・ひばり園・第二ひばり園保護者会では、負担の軽減をはかること、とくに給食費(一日六〇〇円)のうち人件費分(四二〇円)負担の軽減を市にもとめてきました。

三月市議会、六月市議会で日本共産党は、保護者負担の軽減を強くもとめました。

一二日の厚生常任委員会で、市は給食費の人件費負担分について、四年間の激変緩和措置をとることを明らかにしました。

これは保護者の七割

税均等割、所得割課税世帯の場合、ひばり園・第二ひばり園で六・五倍から九・八倍もの負担増となります。

保護者負担の大幅増が、利用抑制をもたらす、障害の早期発見・早期療育の大きな妨げになることが問題となつていきます。

の世帯が適用されま(非課税世帯等は国の制度の軽減が適用される)。

自立支援法にもづく制度変更は、保護者負担の大幅増をもたらすものとして、国会で日本共産党は強く反対してきました。

同時に、寝屋川市の今回の対応は不十分であるが、自治体としての負担軽減の一定の措置と判断し、日本共産党議員団は条例改正に賛成の態度をとりました。

視界

現在の若者層(一五〜二四歳層)の雇用者の約半数は非正規雇用です。なぜ不安定な立場におかれ、年収一五〇万円以下になってしまおうのか。最大の問題は正規雇用の道が閉ざされていることです。企業が非正規ばかり雇う理由は何人件費の削減です。こんな雇用破壊を進めたのが、小泉内閣の「構造改革」です。大企業・財界の要望に従って、正社員を減らした企業が減税するしくみをつくったり、製造業に「派遣」を拡大するなどして非正規雇用を増やしてきました。▼寝屋川市発行の「商工だより」には、非正規社員の正規社員への転換を前提とした「登用制度」の有無について、市内の企業に調査した結果が載っています。

回答企業一九二社のうち、「ある」と答えたのは二四％、「検討中」が二二％、「ない」が六四・一％で厳しい状況にあります。▼但し、この内、従業員が五〇人以上九人規模の企業では、「ある」一四・六％と「検討中」三三・一％を合わせて約七割が「正規社員への転換」制度があることと答えています。低賃金・不安定雇用をなくしていく政策こそ求められていま

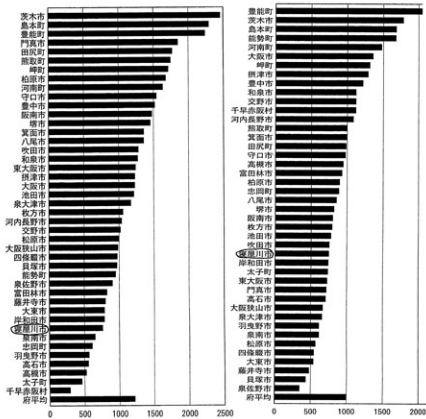
学校図書購入費(1人当たり)府下比較

小学校 28位 中学校 36位

学校図書館の図書購入費(児童生徒1人当たり)

(中学校)

(小学校)



○五年度、大阪の学校統計の児童・生徒数を基に、1人当たりの学校図書館の図書購入費の府下比較をおこないました。(○五年度当初予算ベース)

小学校の場合、府平均

均には九九九円で、最も多いのは豊能町二一三円、次いで茨木市一七七八円、寝屋川市は七七八円で二八位でなす。

本市二四五九円、本市は七六二円で三六位となっています。

市内のある小学校では、各学年から購入要望される図書のうち、一〇巻位のシリーズもは予算が少ななくて全

学年分が購入できない、新刊が入っても児童数に対して冊数が少ないため、一年間は貸し出しをせず、図書室においている等の実態があるとのこと。

「高校つぶし」東寝屋川・四條畷北高統合

五日、大阪府教育委員会は、「府立高校学校特色づくり・再編整備計画」に基づき、東寝屋川高校と四條畷北高校を統合し、東寝屋川高校地に普通科総合選択制の高校をつくることを公表しました。

八年度を迎えた大阪府の「高校つぶし」に

よって、府立高校は全日制では一五校、夜間定時制は一四校が減少しています。

一方で、昨年度の全日制公立高校の出願者数をみると、前期入試

で平均一、四四倍、後期入試で一、四四倍と「公立志向」が顕著になっています。

この春の後期入試で「昼間の高校」の不適合者は四二〇人に上ります。「高校つぶし」に多くの市民が「ノー」の声を上げています。

知り合いが、「東京に行ってきた。やつと一五年ぶりに身内に会うことができた」と、市役所の控室を訪ねてくれました。

離れていても、親や兄弟がどうしているのかは誰もが気になるものです。

「昼間の高校」の不適合者は四二〇人に上ります。「高校つぶし」に多くの市民が「ノー」の声を上げています。

訪ねてくれました。うれしい報告を聞きながら、改めて家族の大切さを思い出します。

日に頑張りたいと思っています。

職員日誌



中林 かずえ